



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

北海道支部

赤十字 ほっかいどう

もっと伝えたい。北海道の赤十字のこと。



— あの時、あの場所にいたのは日赤の救護班でした —
特集 新型コロナウイルス感染症に対する日本赤十字社の対応



クルーズ船及び一時滞在施設等における救護活動

新型コロナウイルス感染症の初期段階で大きな話題となったクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」での集団感染。日本赤十字社は2月10日から3月1日まで、北見赤十字病院の業務調整員を含む延べ142名の職員を現地に派遣し、乗員乗客3,711名の健康の確保等に務めました。

また、その下船者対応と中国武漢市からチャーター便で帰国した方々の経過観察を支援するため、2月7日から3月6日まで埼玉県内の一時滞在施設に旭川赤十字病院の医療チームを含む延べ113名の職員を派遣し、施設に滞在された方々の健康チェック等に従事しました。

CONTENTS

特集 新型コロナウイルス感染症に対する日本赤十字社の対応	
北海道 赤十字病院の奮闘	2
ボランティア・青少年赤十字の取り組み	3
感染予防啓発の取り組み	4

皆さまのご支援に感謝	5
令和元年度決算報告	6～7
わが町の赤十字奉仕団	8
受章者の紹介	8

知的障がい者施設のクラスターを食い止めろ！ 北海道 赤十字病院の奮闘

福祉施設「向陽園」（紋別郡）は、知的障がい、発達障がいのある方が暮らす障がい者支援施設です。今年4月中旬、病気治療を終え戻られた入所者が園外で新型コロナウイルスに感染し、同園内に感染が広がりました。

北見赤十字病院ではこの一報を聞き、オホーツク圏にある置戸赤十字病院、小清水赤十字病院に呼びかけ医療チームを結成し、4月29日から5月31日まで医療活動を行いました。

医療チーム第1班として活動した北見赤十字病院看護師の活動報告をご覧ください。

4月29日から5月1日まで「オホーツク圏域の医療を守る」「向陽園の感染を最小限に抑える」ことを目標とし、向陽園医療チーム1班として師長、主事と共に活動を行った。

向陽園では常に換気を行い、あちらこちらにバリケードが作られ、入居者が行き来出来ないように工夫がされていた。1班派遣時は施設の情報が少なく、まずは情報収集を行いながら活動を開始した。2日目の朝、レッドゾーンから抜け出した入居者を職員が防護具を身に着けたまま追いかけていく場面に遭遇し、この施設内で感染対策を行う難しさと重要性を感じた。

副院長と薬剤師が到着後、COVID-19陽性者への投薬が開始された。施設看護師が不在で入居者は通院ができない状況の中、職員は不安を抱えながらも懸命に勤務しており、医療チーム派遣の必要性をあらためて感じた。

1班の活動は様々な立場の人が集まり次々と体調不良者の報告や相談がある中、物資の配置、感染対策指導、巡回診療、濃厚接触者リスト作成、電子カルテ作成、保健所との協議、PCR検査などその業務は早朝から深夜まで及んだ。

特に共有スペースが多く居住者のいる施設でのゾーニングや物資が不足する中での感染対策は悩む事も多く、皆で意見を出し合い、相談しながらの活動であった。何より入居者を一番理解されている向陽園職員の協力がなくては成し得ない活動であり、職員の方々へのケアも重要な役割であったと思う。

目標であった活動体制を整えるには時間が足りず緊張した中での活動であったが、施設のアットホームな雰囲気と職員の入居者を守りたいという強い熱意に心を打たれ、無事活動を終了し2班へ引き継ぐことができた。

向陽園での医療活動は、私にとって貴重な体験となった。今回の活動にご支援ご協力頂いた皆様に感謝いたします。



▲ 入所者の部屋を回り往診する医療チーム



▲ 意見を出し合い、相談しながら活動は進められた

ボランティア・青少年赤十字の取り組み #みんなで乗り越える

赤十字奉仕団の取り組み

新型コロナウイルス感染症で活動が制約されるなか、全道各地の赤十字奉仕団は手作りでマスクを作製し、地元の医療施設や福祉施設、学校等に寄贈するなど、赤十字ボランティアの特色を生かし、地域のニーズに即した奉仕団活動を行いました。



▲ 小清水保育所への寄贈（小清水町赤十字奉仕団）

手作りマスク寄贈実績（令和2年8月末現在）

奉仕団名	活動日	寄贈先	寄贈枚数
森町赤十字奉仕団	3月	町内小学校新入学児童	102枚
剣淵町赤十字奉仕団	3月	剣淵町立剣淵小学校新入学児童	28枚
恵庭市赤十字奉仕団	3月～4月	恵庭市教育委員会（市内小学校新入学児童）	682枚
余市町赤十字奉仕団	4月	余市町教育委員会（町内小中学校）	870枚
津別町赤十字奉仕団	4月	一般介護予防事業参加者、人工透析患者、在宅酸素利用者等	168枚
初山別村赤十字奉仕団	4月	村内小中学校	74枚
利尻町赤十字奉仕団	4月	独居高齢者、高齢者福祉センター入居者、高齢者共同生活施設入居者	726枚
伊達市赤十字奉仕団	4月～5月	伊達赤十字病院	3,500枚
岩見沢市赤十字奉仕団	4月～5月	岩見沢市役所	88枚
札幌市赤十字奉仕団	4月～7月	日本赤十字社北海道支部、日本赤十字社小樽保育所、釧路さかえ保育園、北海道赤十字血液センター、札幌市白石区社会福祉協議会、札幌市白石区本郷通放課後支援サービス「糸」、札幌市白石区東白石まちづくりセンター、札幌市白石区内幼稚園	955枚
清水町赤十字奉仕団	5月	社会福祉法人清水旭山学園	100枚
当別町赤十字奉仕団	5月	当別町社会福祉協議会	100枚
白糠町赤十字奉仕団	5月	特別養護老人ホーム清和園	660枚
小清水町赤十字奉仕団	6月	小清水保育所、小清水幼稚園	256枚
天塩町赤十字奉仕団	7月	特別養護老人ホーム恵愛荘	50枚

青少年赤十字の取り組み

青少年赤十字加盟校である置戸町立置戸中学校は、オホーツク管内で新型コロナウイルス感染症に対応していた北見赤十字病院並びに遠軽厚生病院に対して、生徒会の企画のもと医療従事者への感謝と励ましの言葉を全生徒から募集し色紙にまとめ両病院に寄贈しました。



▲ 励ましのメッセージがまとめられた色紙を持つ北見赤十字病院職員

感染予防啓発の取り組み ～感染拡大を防ぐために～

日本赤十字社では、新型コロナウイルス感染予防のためにガイド、動画を作成し、情報発信に努めています。感染拡大を防ぐための一助としてお役立てください。また、周りの方やSNS等でこの情報を広げてくださいますようお願いいたします。

ガイド 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」

新型コロナウイルス感染症が「3つの感染症」の顔を持ち、これらが「負のスパイラル」としてつながることで感染の拡大につながっていることをご存じでしょうか。

この負のスパイラルを知り、断ち切るためのガイドとして「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」が医師、看護師、臨床心理士など専門知識をもった日赤職員により作成されました。

ガイドでは3つの感染症を「病気そのもの」「不安と恐れ」「嫌悪・偏見・差別」であるととし、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別がさらなる病気の拡散につながる「負のスパイラル」を断ち切り、感染症の拡散を防ぐための工夫を紹介しています。

このウイルスとの戦いは長期戦となることが予測されます。それぞれの立場でできることを行い、みんなが一つになって負のスパイラルを断ち切りましょう。



ガイドは簡単な説明文とイラストで作成

動画 「ウイルスの次にやってくるもの」

新型コロナウイルス感染症から体と心、そして社会を守るための心構えを伝える動画「ウイルスの次にやってくるもの」が今年4月に下記Webサイトで公開して以降、220万回以上再生されています。

人から人へと広まっていく、もしかしたら、ウイルスよりも恐ろしいものとは？そして、わたしたちができることとは？

この動画を見てウイルスの次にやってくる「もの」と「それ」に飲み込まれる前にできること、考えてみませんか。



動画は約3分のアニメーションで作成

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～、動画「ウイルスの次にやってくるもの」は日本赤十字社特設Webサイト(右のQRコードを读取)からご覧いただくことができます。

日赤 新型コロナ 活動報告

検索



皆さまのご支援に感謝

新型コロナウイルス感染症対策のために役立てて欲しいと企業、団体、個人の皆さまから様々な形で支部、病院等にご寄付をいただきました。

皆さまのご支援は、新型コロナウイルス感染症への対応をはじめとした赤十字活動の大きな原動力となっております。ここではその一部を紹介いたします。

医療活動を支援するために

6月10日、伊藤組土建株式会社様より新型コロナウイルス感染拡大に伴い、治療の最前線に立っている医療機関に対する支援として1,000万円の寄付を受けました。

玉木勝美代表取締役社長は、新型コロナウイルス感染症の治療に携わる全ての医療従事者に感謝の意を表され、「1日でも早く医療機関が平常の活動ができるようになってほしい」とのお言葉をいただきました。



▲ 玉木代表取締役社長（右）から高薄副支部長（左）に目録が手渡されました

手作りフェイスシールドの寄贈

6月16日、札幌市在住の伊藤香一^{こういち}くん、美子^{みこ}ちゃんから、手作りのフェイスシールド46個が寄贈されました。

香一くんは、連日のテレビ報道で医療物資の不足が長引いている事を知り、高校生やプラスチック加工会社がフェイスシールドを自分で作製している光景を見たことをきっかけに「自分でも作れるのではないかな」と思い、インターネットで作り方を調べ、何度も試行錯誤しながら、妹の美子ちゃんと一緒に作製したそうです。

フェイスシールドには、医療関係者の方々への感謝と応援メッセージが記されており、当支部では最前線で奮闘する道内赤十字病院に届けました。



◀ 「みんながんばれ」とメッセージが書かれたフェイスシールド



▲ 寄贈してくれた伊藤香一くん（左）と美子ちゃん（右）

日本赤十字社北海道支部はこれからも感染拡大防止のための活動に取り組んでまいります

新型コロナウイルス感染症の脅威はいまだ収まっておりません。終息するまで万全の対応が取れるよう皆様のいのちと健康を守るための活動を続けてまいります。

あわせて、近年頻発している自然災害に備えるために感染症対策を踏まえた救護班の訓練や救援物資の整備等も進める必要があります。

これらの活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金によって賄われておりますが、今年度は大幅な活動資金の減少が見込まれ、活動に深刻な影響を与えることが懸念されております。

つきましては、赤十字の活動にご理解いただき、活動資金へのご協力をいただきますようお願いいたします。

寄付で赤十字の活動に参加

- ・インターネットから（クレジットカード）
- ・銀行、郵便局の窓口から
- ・お住いの地域の町内会や自治会から

日本赤十字社 寄付

検索

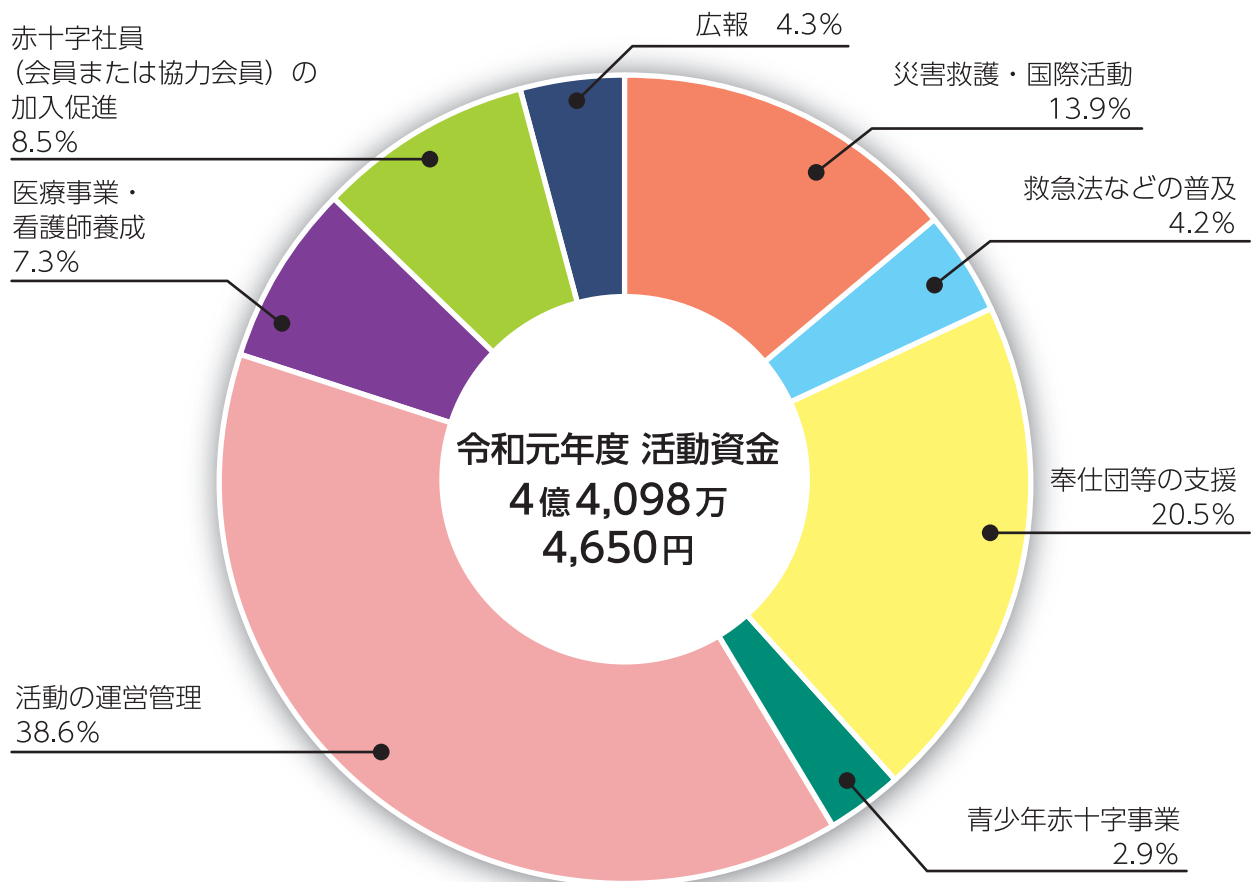


一定額以上の寄付（会費・寄付金）をいただいた場合は、税制上の優遇措置が受けられます。

令和元年度 決算報告

皆様のご支援に

令和元年度は、活動資金と
とに、災害救護や救急法など
なお、新型コロナウイルス
福祉それぞれの事業報告及び



災害救護・国際活動	61,103,921 円
救急法などの普及	18,372,254 円
奉仕団等の支援	90,206,260 円
青少年赤十字事業	12,803,006 円
活動の運営管理※	170,028,263 円
医療事業・看護師養成	32,119,354 円
赤十字社員（会員または協力会員）の加入促進	37,600,916 円
広報	18,750,676 円

※赤十字はボランティアが中心となって活動していますが、事業が円滑に進むよう専任の職員がボランティアとの調整や救援物資・資材の調達、訓練や講習会などを始めとする事業の企画・立案・調整・報告などを行っています。運営管理費にはこれら職員の人件費を含め、社屋の維持管理費・諸税などが含まれています。

皆様の継続的なご支援が赤十字の活動を支えています。

感謝申し上げます

して4億4,098万4,650円のご協力をいただきました。誠にありがとうございました。いただいた活動資金をもの普及等、皆さまのいのちと健康を守る活動を行うことができました。

感染予防のため、文書審議により行われた令和2年度第1回評議員会において、令和元年度の一般・医療・血液・歳入歳出決算が令和2年7月20日をもって承認されました。

令和元年度の主な活動トピックス

災害救護 台風19号災害への対応

令和元年10月に東日本に上陸した台風19号は大雨による河川の越水や堤防の決壊など多くの地域に甚大な被害をもたらしました。

北海道支部では日赤宮城県支部の活動強化のため支援要員として職員2名を派遣したほか、旭川赤十字病院救護班を同県丸森町に派遣し、巡回診療活動やこころのケア活動を行いました。



▲ 支援要員として宮城県支部に出発する職員

国際活動 日赤・ルワンダ赤十字社二国間事業

日赤では令和元年12月からアフリカ・ルワンダ共和国を対象に地元赤十字社とともに気候変動の影響と考えられる災害、感染症などの問題に地域住民が対応できる力を高め、改善することを目的とする支援事業を開始しました。

当支部では9月29日から10月13日の15日間、職員1名を現地に派遣し、事業開始前の最終調整に同行しました。



▲ 水くみ場にいた子どもたちと職員

青少年赤十字事業 リーダーシップ・トレーニング・センター

青少年赤十字の教育プログラムのひとつにリーダーシップ・トレーニング・センター（通称「トレセン」）があります。集団生活をととして「リーダーシップの取り方を学ぶこと」を目指し、赤十字の基本原則や国際人道法を学び人道的な価値観を育みます。

このトレセンが昨年7月～8月と今年1月に道内4会場で5回開催され、青少年赤十字加盟校22校から132名のメンバーが参加しました。



▲ フィールドワークで協力してパズルに挑戦

わが町の赤十字奉仕団

地域に根ざしたさまざまな活動をしている赤十字奉仕団。
その中からいくつかの奉仕団の取り組みをご紹介します。

伊達赤十字奉仕団

伊達赤十字奉仕団は、昭和25年4月、伊達赤十字病院内の一室から結成し、令和2年で70年を迎えました。

設立当初の活動は、丁字帯、包帯洗い、ガーゼたたみ、赤ちゃんの産着作りなどでしたが、時代とともに活動が変化し、現在では赤十字フェスティバル、ふれあい広場、伊達武者まつり着付け、有珠海水浴場救護、ウエス作りを月に2回、献血街頭依頼、緑の羽根募金、赤い羽根共同募金、災害時の街頭募金、施設訪問手伝い、春・秋の研修等を行っております。

また、伊達赤十字病院前庭の花壇作りは、種をまき、苗を育て、赤十字マークの寄せ植えなども行い、5か月間毎日当番制で水やり手入れをしており、通院される方や、市民の方からの喜びの声が励みとなり頑張っています。

赤十字フェスティバルでは、子供たちの喜ぶ出店や、非常食体験試食コーナーを開設しています。非常食は全てビニール袋を使い担当者が毎回工夫を凝らしてメニューを考え赤十字炊き出し100選に入選するほどです。昨年の秋の研修では、道支部での災害図上訓練DIGを行い大変勉強になりました。

この70年の間で、有珠山噴火時の避難者への食事提供、東日本大震災では8日間宮城県山元町で支援活動、胆振東部地震災害時は、安平町での炊き出し応援など貴重な体験を致しました。

今年は新型コロナウイルスの為、ほとんどの活動が中止になっておりますが、伊達赤十字病院の依頼で3,500枚のマスクを作製致しました。

ボランティア活動は健康が一番です。色々な行事を通して団員相互の連携を深め奉仕団信条のもと今後の活動に努めて参ります。

委員長 菊谷 明美



▲昨年の研修では災害図上訓練（DIG）を実施

▼伊達赤十字病院で使用するマスクを作製



たくさんのご協力ありがとうございました。

活動資金にご協力いただき、表彰された方々を紹介します（敬称略）

金色有功章

伊達市 松山 はるえ
函館市 久米整形外科 久米 守

社長感謝状

支 部 富士自動車工業株式会社
千歳市 北海道空港株式会社
函館市 公益財団法人杉崎福祉財団

銀色有功章

千歳市 協業組合カンセイ
金田一建設株式会社
支 部 日本ハムマーケティング株式会社

（令和2年3月～6月表彰伝達分）

Instagram(インスタグラム)はじめました！

北海道支部公式マスコットキャラクター「アンリー」が情報発信しています。
ぜひフォローしてください。 @henri_jrch

Follow me!



発行元



日本赤十字社 北海道支部
Japanese Red Cross Society

札幌市中央区北1条西5丁目
TEL:011-231-7126

発行日

令和2年10月1日



公式 facebook で情報発信中！
<https://www.facebook.com/hokkaido.jrc/>

日赤北海道



<http://www.hokkaido.jrc.or.jp/>

mud
MEDIA UNIVERSAL DESIGN

この印刷物は北海道印刷企画(株)が
メディア・ユニバーサルデザインに
配慮して制作しています

UD
FONT

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づき、
より多くの人に見やすく読みまちがえにくい
デザインの文字を採用しています。